

⑦四百五十万年間も石器を持たずに暮らしていた。[4]	⑭狩猟は人間どうしの戦いとは性質が違う。[6]
⑧人類が初めて使い始めた石器も武器にはほど遠い。殺傷力は弱い。[4]	⑮仲間との戦いは相手に自分を理解させ、平和を作り出す目的で行使される。[6]
⑨自由になった手でいち早く武器を作っていない。武器で戦い合うようになっていない。[4]	⑯相手の了解が得られれば、戦いを続ける必要も、相手を殺す必要もない。[6]
⑩狩猟が人間の攻撃性を高め、人間どうしの戦いを助長するものではない。[5]	⑰ゴリラの雄は暴力をめったに仲間へ向けることはない。[6]
⑪集団間に起こる暴力的な争いの頻度は、農耕社会のほうが高い。[5]	⑱ヒヒやチンパンジーは狩猟の方法を用いて仲間を襲うことはない。[6]
⑫狩猟採集社会では、争いが起きないような規範が生活の隅々に行き渡っている。[5]	⑲農耕の出現によって集団に帰属し、集団のために戦うという意識が生まれた。[7]
⑬狩猟採集民の平等社会は、ともに生きることへ向かう実践を徹底させて維持されている。[5]	⑳人間は家族を超えてさらに大きな集団に身を捧げて戦うという精神構造を発達させた。[7]